

京都市美術館名品展

京の美人画 100 年の系譜

平成 29 年 4 月 8 日（土）— 平成 29 年 5 月 21 日（日）

【展覧会概要】

理想の女性美の描出を目指した美人画は、江戸期の浮世絵の伝統を受け継ぎつつ、明治期以降一つのジャンルとして確立しました。描かれる対象は、優美で品格高い女性の姿だけではなく、市井の女性が暮らしを営むあるがままの姿、内面や真の姿に迫った革新的な女性像など、時代の様相を反映し、多様化していきました。

本展でご覧いただくのは京都市美術館所蔵の美人画の優品 60 点です。京都市美術館は 1933（昭和 8）年の開館以来、明治期以降の京都を中心とした美術・工芸品を収集し、特に京都画壇隆盛期の作品の充実は、他に類を見ないものとなっています。京都画壇で制作された美人画の名品を通して、多彩な女性の美をご鑑賞ください。



上村松園《晴日》昭和 16(1941)年

【開催要項】

名 称	京都市美術館名品展 京の美人画 100 年の系譜
会 期	平成 29 年 4 月 8 日（土）～平成 29 年 5 月 21 日（日） 38 日間
主 催	岡崎市美術博物館 中日新聞社
特別協力	京都市美術館
協 力	岡崎呉服協同組合
開館時間	午前 10 時～午後 5 時（*ただし最終の入場は午後 4 時 30 分まで）
休 館 日	毎週月曜日
観 覧 料	一般（高校生以上）1,000 円（900 円） 小・中学生 500 円（450 円） ※着物を着て来館された方は通常観覧料の半額 *（ ）内は 20 名以上の団体料金 *岡崎市内の小中学生は無料（わくわくカードまたは学生証を提示） *各種障がい者手帳の交付を受けている方及びその介助者は無料
会 場	岡崎市美術博物館 [マインド・スケア・ミュージアム] 愛知県岡崎市高隆寺町字峠 1 番地 岡崎中央総合公園内 TEL 0564-28-5000/FAX 0564-28-5005 http://www.city.okazaki.lg.jp/museum/index.html
交通案内	[お車] 東名高速道路「岡崎インター」から約 10 分 [バス] 名鉄東岡崎駅（北）バス乗り場②番から「中央総合公園」行 に乗車、「美術博物館」下車、徒歩 3 分 土・日・祝日は、バス乗り場①番から拠点快速バス（おかざき エクスプレス）もご利用いただけます。

イベントのご案内

【講演会】

日 時	4 月 15 日（土） 午後 2 時～午後 3 時 30 分
会 場	当館 1 階セミナールーム
講 師	尾崎 眞人氏（京都市美術館学芸課長）
演 題	「京都の美人画の歴史」
定 員	70 名 先着順（当日午後 1 時より整理券配布予定）

【展示説明会】

- ・高田啓史氏によるスペシャルギャラリートーク

日 時	5 月 7 日（日） 午後 2 時～
会 場	当館 1 階展示室
講 師	高田啓史氏（小紋屋高田勝主人）・荒川貴夫氏（くすや呉服店店主）
参加費	無料（ただし当日の展覧会観覧チケットが必要です）

・学芸員によるギャラリートーク

日 時 4月16日(日)、29日(土・祝)
 5月3日(水・祝)、5日(金・祝)、13日(土)、21日(日)
 全日とも午後2時～
参加費 無料（ただし当日の展覧会観覧チケットが必要です）

【問い合わせ先】

岡崎市美術博物館

〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町峠1番地 岡崎中央総合公園内

TEL 0564-28-5002 FAX 0564-28-5005

展覧会担当 内藤高玲

【展示概要】

序

江戸時代には、女性を描いた浮世絵は「美人写し」、「美人競い」などと呼ばれていました。明治に入ると、ポスターや挿絵に女性が多く描かれるようになり、画壇では「美人画」が隆盛します。本章では、それらの中から美人画の典型的なものを展観いたします。

【主な出品予定作品】

上村松園	《春光》	昭和戦前期
伊藤小坡	《夏》	大正 9(1920)年
千種掃雲	《ねざめ》	明治 44(1911)年

第1章 京都に咲いた美人画

長い伝統のなかで独自の文化や風俗が培われた京都では、地域にまつわる文学や芸能、生活を描いた作品が豊富です。京都を画題とした美人画もまた、場所柄を色濃く反映して多様に展開しました。本章では、芸能・文学から着想を得た作品と、風俗・生活を描いた作品を通じてご覧いただき、京の美人画の多彩さをお愉しみいただきます。

【主な出品予定作品】

幸野楳嶺	《呉服漢織之図》	明治 14(1881)年
西山翠嶂	《広寒宮》	明治 40(1907)年
案本一洋	《鶴》	昭和 11(1936)年

第2章 美人画のさまざま

明治中頃にひとつのジャンルを形成した美人画ですが、当初から描かれる女性は多岐にわたっていました。女性のたおやかさや愛らしさを描く美人画がある一方で、日常の端々にみる美しさ、あるいは暮らしの憂さから滲む美をそれぞれに描く美人画は、女性にまつわる美の豊かさを物語ります。本章では、さまざまに展開した美人画の変奏をご紹介します。

【主な出品予定作品】

上村松園	《晴日》	昭和 16(1941)年
北野恒富	《浴後》	明治 45(1912)年頃
菊池契月	《友禅の少女》	昭和 8(1933)年頃

第3章 美人画の展開

明治中期以来、美人画は時代を反映しながら変遷をたどり、現代まで描かれ続けています。たとえば近代化がめざましい大正期から昭和初期にかけては、モダンで進歩的な女性の姿が多く描かれ、また帝国主義を背に変化したアジアへのまなざしに応じるように、東洋諸外国の女性が画中に多く登場しはじめます。各時代の美人画からは、作品に表れた女性観や彼女らが置かれた状況の変化が見てとれるでしょう。本章では、明治末から現代にいたるまでの変遷をたどりながら、明治末から平成の美人画をご紹介します。

【主な出品予定作品】

丹羽阿樹子	《遠矢》	昭和 10 (1935) 年
由里本景子	《望遠鏡》	昭和 15 (1940) 年
前田青邨	《観画》	昭和 11 (1936) 年

作品総数 全 60 点

【参考図版】



1 上村松園《晴日》昭和 16(1941)年



2 上村松園《春光》昭和戦前期



3 北野恒富《浴後》明治 45(1912)年



4 幸野煤嶺《呉服漢織之図》明治14(1881)年



5 菊池契月《少女》昭和7(1932)年



6 丹羽阿樹子《遠矢》昭和10(1935)年



7 由里本景子《望遠鏡》昭和15(1940)年

広報担当：内藤高玲・畔柳睦子 E-mail: bihaku-kikaku@city.okazaki.lg.jp